

平成 30 年度 学校評価報告書 実施結果

視点	4年間の目標 (平成29年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月7日実施)	総合評価(3月19日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	<p>①生徒自らが課題を発見、探求して課題を解決する意欲と力を高められるよう教育課程の再編に取り組む。</p> <p>②生徒の主体的な学びを引き出し、生徒一人ひとりに応じた教科指導體制と学習評価体制を確立し、不断の授業改善に取り組む。</p>	<p>①生徒の課題解決力や学ぶ意欲を育むとともに、大学入試改革や新学習指導要領に柔軟に対応できる教育課程の改訂に引き続き取り組む。</p> <p>②インクルーシブ教育推進実践校として、生徒個々のニーズを共有し丁寧な学習支援とTT体制、学校設定科目の内容の整備など柔軟な教科指導體制を実践する。</p>	<p>①朝読書を含めた探求型総合的学習の時間の実践と検証を行うとともに、大学入試改革に向けた英語力の向上の具体策を検討する。【教務】</p> <p>②生徒の主体的な学びと支援教育の推進及びTT体制の検証、ICT機器の活用、学校設定科目の充実を授業研究のテーマとし、組織的な授業改善を図る。【教務 相談支援】</p>	<p>①教育課程検討会を定期的に開催し機能化させ、教育課程の改訂に向けた具体的な検討と改訂を行うことができたか。</p> <p>②生徒個々のニーズに応え、主体的な学びを引き出す授業や指導方法について、教科担当者間の連携や計画的に研究授業や研究協議を行うことができたか。</p>	<p>①朝読書を含めた探求型総合的学習の時間の実践報告として、各学期にクラス発表、学年発表を行った。生徒の取り組み状況もよく高評価であった。 ・教育課程検討会を計画的に開催した。併せて教科会の開催も依頼し大学入試改革や次年度以降に向けての新科目の検討を学校全体で進められた。 ②「生徒の興味関心を高め、達成感から主体的な学びへ」をテーマに近隣中学校及び県立学校へも呼びかけ授業公開・協議、及び研修会を実施し成果をあげた。ICT機器を活用した授業や授業のUD化については促進され、全ての生徒にとってわかりやすい授業実践が増えている。</p>	<p>①今年度進めた探究型「総合的な学習の時間」を検証すると共に、来年度から始まる「総合的な探究の時間」に向け、具体的な方策の更なる検討が必要である。また教育課程検討会を行い教育課程の改定に取り組んだものの、新学習指導要領に対応できる改定までは進められなかった。来年度への課題としたい。 ②3年目の取り組みとなり授業のUD化、合理的配慮の実施についてはかなり充実してきたが、「わかる授業」の実施にむけ更に授業改善を推進する必要がある。また「個別教育計画」の作成に関する研修が必要である。</p>	<p>①大学入試改革や新学習指導要領の実施に向けて、教育課程の検討については、計画的できめ細やかな取組が進められている。 インクルーシブ教育推進と進学実績向上の両輪がよく駆動している。 ②主体性の育成は大学の講義でも課題となっている。生徒の参加意識や満足度を高める授業を実践し、「主体的で対話的で深い学び」につながる授業実践に取り組んでいることがわかり、評価できる。引き続き、授業改善を推進してもらいたい。</p>	<p>①大学入試改革への対応や探究型の総合的な学習の時間の実践について具体的な方策をたて実施できた。 連携募集生徒の3年間を見通した教育課程の原型が完成した。 新学習指導要領への対応に引き続き取り組む。 ②ICT機器を活用した授業や授業のUD化など授業改善が促進されている。また、どの生徒にとってもわかる授業を実践することが達成感につながり、生徒の主体的な学びへとつながることが確認でき、これをもちに授業改善をさらに進める。良い授業実践や教材の共有などを進める必要がある。</p>	<p>①新学習指導要領に対応した教育課程の改訂では、教職員の共通理解を図るとともに、プロセスを明確にし、定期的な教育課程検討会、教科会を有機的に機能させる。 ②生徒の主体的な学びとなっているか、「わかる授業」が実施されているか等、生徒による授業評価を活用し、ふりかえりと改善を行う。 良い授業実践や教材等を共有するための授業見学等を推進する。</p>
2 生徒指導・支援	<p>①生徒数の減少の中で部活動の活性化を推進し、協調性と責任感の涵養を図る。</p> <p>②学校行事や生徒会活動の精選と活性化を進め、生徒とともにユニバーサルデザイン化(以下UD化)を推進する。 ③生活指導と生徒支援の一体化を推進し教育相談体制の拡充と外部連携を進める。</p>	<p>①部活動の環境整備と安全面に配慮し、部活動における生徒の達成感や充実感を育み、部活動の活性化と学業との両立を推し進める。</p> <p>②人権尊重の視点に立った教育活動を推進するとともに、個に応じた指導と支援の一体化に向けた「チーム力」の向上を図り、きめ細やかな生徒支援を進める。</p>	<p>①部活動の活性化のため加入率の向上と充実感に育につながる継続的な支援体制整備に努めるとともに、活動休養日の設定など課題への共通理解を図る。【生徒会】</p> <p>②教職員、生徒の人権意識を高めるために有効な研修、講演会を企画実施するとともに、関係グループ間の連携強化や教職員個々のカウンセリングマインドや指導力の向上を図る。【相談支援・生徒指導】</p>	<p>①部活動加入率(70%超)の維持、増加だけでなく、途中退部に係る分析や対応策を検討できたか。学業とのより良い両立を目指した支援が行えたか。</p> <p>②研修、講演会を実施することで人権尊重の意識向上につながったか。グループ間や支援会議との連携及び生徒指導と生徒支援の融合を進めた柔軟な体制づくりができたか。</p>	<p>①部活動加入率は68%で、この3年間減少傾向である。前年度実績の維持・増加という最低限の目標には至らなかった。定期試験前の学習会の実施等、各部の裁量で学業との両立を図る取組を実施した。また各顧問が、活動と休養のバランスを意識した計画に則って指導を行った。</p> <p>②性教育、LGBTQ、SNS等をテーマに、人権を切り口として人権意識を高めるべく研修を企画し実施した(5/24・9/13 11/22)生徒、教員ともに事後のアンケートから人権意識の変容がみられた。 ・リソース会議も含め30回程のケース会議を開催し、困難を抱える生徒の多角的な支援が展開できた。</p>	<p>①新入生への部活動加入の啓蒙方法を検討する。部活動見学・体験などを通して、次年度入学希望者への働きかけを実施する。部活動のあり方については、各部の事情に応じつつ、生徒・顧問ともに過重とならないよう計画的に活動するための共通理解をより図る必要がある。 ②教職員、生徒の更なる人権意識の向上をめざし、より質の高い研修内容の開発、講師等の開拓に努める。 ・ケース会を活性化できるように、必要に応じて柔軟かつスムーズにケース会を開ける体制作りとその方法について開発する。</p>	<p>①部活動加入率が低下傾向にある情勢分析が必要である。家庭の経済状況、アルバイトの影響なども考えられる。 生徒自身が主体的に活動を立ち上げるような仕組みがあるとよい。活動継続の支援を今後も行ってほしい。 ②さまざまな今日的な人権課題を考えていくための研修の実施は生徒にとって有益である。また、困難を抱える生徒への丁寧な支援が行われており、関係機関との連携も図られている。</p>	<p>①学業と部活動との両立を図る取組を実施した。活動と休養の適切な設定も、計画に則って実施した。 学校全体の活性化のために部活動加入の促進をする必要がある。 ②生徒、教職員の人権への意識が高まり、多様性が尊重される雰囲気醸成された。 生徒自身が実際の行動に結びつけられるような働きかけが必要である。 合理的配慮に基づいた支援体制が整備された。情報共有、ケース会の実施による生徒理解の深まりがみられる。多様な生徒へのチームでの対応への更なる充実を図る必要がある。</p>	<p>①部活動加入率の低下、途中退部者の増加に関する情勢分析を行い、具体的方策を立てる。 自主的で主体性のある部活動となるよう、教職員の働き方改革も含めた部活動の在り方の検討を行う。 ②より効果的な方法と内容を検討し研修機会を設定する。また、研修等の実施前後の生徒の変容をみとるためのアンケートの実施と生徒へのフィードバックを行う。 グループ再編により生徒支援Gと相談支援Gが統合するメリットを生かして指導と支援の一体化を推進する。</p>

視点	4年間の目標 (平成29年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月7日実施)	総合評価(3月19日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
3 進路指導・支援	<p>①生徒自身が、体験し考えるキャリア教育計画を計画し、その実践を進める。</p> <p>②インクルーシブ教育実践推進校として、すべての生徒一人ひとりの社会接続が確実に実現されるよう、丁寧な進路支援を進める。</p>	<p>①生徒一人ひとりの進路実現に向け学習指導と進路指導の両輪の連携と強化を図るとともに、中長期的な指導計画と生徒の成長やニーズの変化に対応できる柔軟な指導体制づくりを進める。</p> <p>②生徒一人ひとりの進路選択能力を高めるため、インターンシップや医療・看護体験、保育実習の拡充、学校設定教科「進路実践」の充実を努める。</p>	<p>①生徒の希望する進路や社会接続を保障するため、安易な進路選択に向かわせない指導を行うとともに、進路指導・支援に係る教職員の研修機会を確保する。 【進路】</p> <p>②社会や職業に対する認識を深めるためのインターンシップの充実、「進路実践」の内容の系統的整備を進めるとともに、幅広い実習・体験先の開拓を行う。 【進路・支援会議】</p>	<p>①進路ガイダンスや進路相談を活用し、保護者と連携しながら生徒の進路に対する意識を高められたか。進路指導についての情報を校内共有できたか。</p> <p>②有効で計画的なキャリア教育の実践と各種試験の活用及び新たな実習・体験先の開拓ができたか。連携募集枠生徒の社会接続につながる取組みができたか。</p>	<p>①生徒の学習指導の進捗に合わせた内容の進路学習を行った。大学見学会や上級学校模擬授業等、学年毎に生徒の特性に合わせた計画的なプログラムを実施した。</p> <p>②LHRや面談を活用し、生徒のニーズに適したインターンシップや体験学習への参加を促進した。「進路実践」では多種多様な企業等(10箇所)での実習や「キャリア」の授業実践により、自己の将来や仕事に対する認識を深めさせることができた。</p>	<p>①複雑化する入試制度に対応できるよう、的確な情報提供を行い、生徒自らが主体的に進路計画の実践ができるよう支援する必要がある。</p> <p>②生徒の進路選択の幅を広げるため、より積極的・自律的な学びと校外模試や各種資格試験への参加促進のための意識啓発が求められている。</p>	<p>①学年や一人ひとりに合わせた丁寧できめ細やかな進路指導が実施されている。</p> <p>②連携募集の生徒の進路実績は注目されている。学校のPRのポイントにもなるだろう。多様な進路に対応することが必要である。関係機関との積極的な連携を図る必要がある。</p>	<p>①生徒一人ひとりの成長やニーズに合わせたプログラムを計画的に実施した。今後も生徒の主体的な進路実現の動きを促す取組みが必要である。</p> <p>②インターンシップや体験学習への参加を促進した。多様な進路選択への対応を引き続き行う。「進路実践」では社会接続につながるよう、内容の充実を図ることができた。対象生徒が増える中で、さらなるブラッシュアップが必要である。</p>	<p>①新しい大学入試制度についての校内での情報共有や進路データの有効活用を進め、経験の浅い教員でも多様な進路指導に対応できる知識とスキルを身に付けられるよう人材育成を行う。</p> <p>②生徒の意識啓発のための効果的な取組みを検討する。「進路実践」の3年間の内容や流れについて課題を整理するとともに、連携募集枠1期生の進路実現に組織的に取り組む</p>
4 地域等との協働	<p>①地域に学校情報を積極的に発信するとともに、生徒の地域理解を進め地域貢献に積極的に取り組むなど、地域との協働を推進する。</p> <p>②地域と連携して、地域防災を推進する。</p>	<p>①学校ホームページ(以下HP)の更新や学校説明会の拡充、中学校訪問の整備を行い、地域に向けての積極的で丁寧な学校情報の発信に努める。</p> <p>②南足柄市と提携し、災害時における対応について、避難所訓練や「避難所初動対応マニュアル」の作成に取組み、地域防災体制の整備に努める。</p>	<p>①生徒・保護者や中学生及び地域の方々など、それぞれのニーズを把握し、HPや学校説明会、中学校訪問等において取組みを積極的に発信する。 【情報管理】</p> <p>またコミュニティスクールの実施に向け、学校評議員会議の活性化に取組む。</p> <p>②災害に備えた体制整備と対応確認を南足柄市及び関係機関との連携を強化する。 【管理運営】</p>	<p>①HPの定期的な更新や学校説明会等で、情報の質と量の確保、的確な情報提供と丁寧な対応ができたか。地域との情報共有を進められたか。</p> <p>②南足柄市と協議を行い「避難所初動対応マニュアル」を作成できたか。</p>	<p>①HPでは、適切な時期に更新を行い情報発信につとめた。中学校訪問では、地域を拡大し情報提供を行った。説明会では、丁寧な説明を心がけた結果、来場者アンケートで全員から「わかりやすい」と回答を得られた。</p> <p>②近隣2自治会、市、関係機関等の協力を得て、避難所開設訓練(8月)、火災避難・通報訓練(11月)、DIG(12月)を実施し、災害に対処する実践的な対応を学ぶとともに地域との連携を強化できた。「避難所初動対応マニュアル」を関係者との協議を深めながら作成し、地域防災の体制作りを推進できた。</p>	<p>①新たなHP管理システムにおいても、適切な更新ができるような体制をつくる必要がある。学校のアピールポイントについて、学校全体で確認するとよい。地域に根ざした学校としての足柄高校の魅力の発信をしてほしい。</p> <p>②市立の小中学校だけでなく、高等学校が地域防災で大きな役割を果たしていることは心強い。</p>	<p>①地区の中学卒業生減少の対応として、中学校訪問地域の拡大、部活動見学会の実施など積極的な広報活動を展開して、丁寧な資料で説明で、説明会では高い評価を得られた。さらに効果的な説明会等の実施や他地区からの入学者減少への対応が必要である。</p> <p>②地域防災の推進に係る連携強化を図るとともに、マニュアルの整備を計画どおり実施した。整備したマニュアルの周知と実際の運用が今後の課題である。</p>	<p>①本校の魅力の発信のためにHPの充実を図る。中学生及びその保護者の進路選択の実際等、情勢分析を行い、地域への的確な情報提供を行う。コミュニティスクールを活用して様々な外部の意見を聴取し、学校運営に活かす。</p> <p>②災害に対処する実践的な訓練を計画実施する。市との協議を継続し、体制整備を進める。</p>	
5 学校管理 学校運営	<p>①教育環境課題を洗い出し、安全安心な環境づくりに計画的組織的に取り組む。</p> <p>②校内施設と教育活動計画のバリエーションを進める。</p> <p>③不祥事防止に努め、実効性の高い組織的取組を行う。</p>	<p>①生徒への対応時間、教材研究の時間を確保していくとともに、高いモチベーションを持って働くことができる職場環境を整備し、教職員の働き方改革を推進する。</p> <p>②教職員一人ひとりが自覚と誇りを持ち、全校体制で不祥事防止の徹底に取組む。</p>	<p>①業務や諸会議の効率化を図るとともに、相談支援グループの発展的解消に向けた校務グループの再編を念頭に、グループ業務、学年業務の精選、整理を行う。</p> <p>②良好な教職員のコミュニケーション関係の構築と職場環境づくりを進めるとともに、定期的な不祥事防止研修を行い、未然防止に努める。</p>	<p>①グループ業務、学年業務の精選、整理に計画的かつ迅速に取組めたか。</p> <p>②不祥事未然防止に対する教職員の意識向上とコンプライアンスマニュアルを活用した効果的な不祥事防止研修を行い、事故・不祥事を達成することができたか。</p>	<p>①働き方改革、業務量削減を目的とし、校務グループを7→6に再編成するとともに、必置委員会や会議の構成等も見直し、業務の精選、整理を実行した。</p> <p>②同僚性の高まりによる良好な職場環境がつけられており、報告・連絡・相談が確実に行われた。また月1回の事故防止会議、適時な不祥事防止研修により、事故・不祥事を未然に防止できた。</p>	<p>①本来業務への対応時間を確保し、人材育成も含めて好循環が生み出すよう、業務の思い切った削減、効率化についてはさらに進める必要がある。</p> <p>②教職員一人ひとりが当事者として意識をもてるように研修のもち方を工夫する必要がある。</p>	<p>①②教員が元気で生徒に対応できる、本来業務への対応時間の創出をする必要がある。それが事故防止にもつながる。</p>	<p>①グループ再編や必置委員会等の見直し等を行い、業務の精選、整理を計画的に進めた。業務総量の削減、諸会議の精選、効率化に一層取り組み、働き方の好循環を生み出す必要がある。教職員数の減少を見据えた対策が必要である。</p> <p>②事故防止会議等の定期的な実施により、事故・不祥事を未然に防止できた。研修等の方法は改善の余地がある。</p>	<p>①業務削減のための検討を引き続き行う。人に頼らない仕組みづくり マニュアル等の整備を行い、業務の円滑な遂行を図る。</p> <p>②教職員一人ひとりが当事者として意識をもてるような研修方法を工夫する。</p>

